

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

印西市議会議員公明党の浅沼美弥子です。本日はご当地をお借りいたしまして公明党印西支部新春街頭演説を行わせていただきます。しばらくの間お騒がせ致しますがご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて昨年は7月の都議選、10月の衆院選で歴史に残る大勝利を果たすことができました。議員、支持者の皆様、ご支援いただきましたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

自公連立政権は衆院選で大勝利しましたが、コロナ禍での国民の不安や不満が解消させたわけではありません。むしろ新たな「オミクロン株」は各地で市中感染が確認され、新規感染者数も増加傾向にあります。私たち一人一人が、基本的な感染防止対策に万全を期すほか、市が実施する3回目のワクチン接種の迅速な実行を後押しし、のみ薬の普及などを進め、明るい展望を開いてまいります。

更に、コロナ禍で顕在化された、貧困や格差の拡大は、今後の経済にも大きな影響をもたらします。公明党は、持続可能性の観点から、全世代型社会保障の構築に尽力してきました。全世代型社会保障という言葉が使われるはるか前2006年に、「少子社会トータルプラン」を掲げました。当時は批判的な声が多くありましたが、この時に公明党が訴えていた主な政策は実現されました。例えば「幼児教育・保育の無償化」などは典型例です。その他、不妊治療の公費助成、給付型奨学金なども拡大させました。今回もそうしたベースの上で、未来を担う子供を安心して産み育てられる社会の構築を国家戦略として勧めるため、公明党は「子育て応援トータルプラン」を策定します。その実行を通じて、子育て・教育を、年金・医療・介護と並ぶ4本目の柱に建てて社会保障を全世代型に広げていく決意です。

公明党には、「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいく」という、不変の立党精神があります。今年は、この指針が党創立者から示されてから60周年の佳節を迎えます。

私たち議員一人ひとりがこの立党精神を胸に刻み、公明党の「小さな声を聴く力」と「ネットワーク力」を存分に発揮し、今年1年働きぬいてまいります。

本年は夏に参院選があります。公明党は、埼玉、東京、神奈川、愛知、兵庫、大阪、福岡の7選挙区の全員当選と比例区全国800万票、7議席獲得を目指し戦います。

どうか皆様力強いご支援を本年も公明党にお寄せくださいますよう心からお願い申し上げますとともに、皆様のご健康ご多幸をご祈念申し上げ、新春のお訴えとさせていただきます。ありがとうございました。